

第1学年〇組 道徳学習指導案

指導者

- 1 主題名 友だちを信じて 低学年 2－(3) 信頼・友情
資料名 「われたかびん」 (ぬくもり)

2 主題設定の理由

- 本主題は「友だちとの間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てる。」ことを主なねらいとしている。よい友だち関係を築くには、互いを認め合い、さまざまな場面での学習活動や生活を通して助け合い、理解し合い、信頼感や友情を育てることが大切である。本時は、「偏見をもつことなく友だちを信頼しようとする」ことをねらいとしているが、それは中学年の2－(3)につながり、さらに高学年の4－(3)の公正・公平とも関わってくる。

そこで、身近な差別や偏見に気づき、公平で公正な態度を養うため、低学年のこの時期から、つらい立場におかれた友だちの気持ちを理解し、信頼することの大切さを学ぶことは大変意義深いと考える。

- 本学級の児童は、泣いている子などがいたら「どうしたと?」「だいじょうぶ?」などよく声をかけている。また、困っている子を助けようとしている姿もよく見受けられる。一方、お互いに関わりが多くなるにつれ、すぐに手や足を出してしまったり、ルールを破ったりして度々注意を受ける子もいる。ともすればそれは、「この子だったらやりかねない」と決めつけしまう言動につながりかねない。

そこで、このような時期に、それまでの言動だけで判断することの間違いに気づき、友だちを信じようとする心情を培うことは意義深いと考える。

- 本資料は、「どうぶつしょうがっこう1ねん2くみ」の床のわれたかびんをみて「おおかみさんがやったにちがいない」と「うさぎさん」や「りすさん」から言われ、「おおかみさん」が泣き出してしまうという話である。そこには、「おおかみさんじゃないよ。」という「きつねさん」も登場する。決めつけられて深く傷つく「おおかみさん」の気持ちに寄り添い、正しく判断し友だちを信頼しようとする「きつねさん」の姿に共感できる資料である。

本時指導にあたっては、「おおかみさんだったら・・・そんなことをするかもしれない」という予断と偏見に満ちた「りすさん」や「うさぎさん」の言動には深入りせず、決めつけられ傷つく「おおかみさん」の気持ちや「きつねさん」の姿に焦点をあてて学習を進めていきたい。導入段階では、強く怖そうなイメージのおおかみではなく泣いている「おおかみさん」の絵を提示し、本資料への関心をもたせ「おおかみさんのきもちをかながえよう。」というめあてを意識化させる。展開前段では、資料を紙芝居にすることで場面の状況をとらえやすくする。また、「りすさん」や「うさぎさん」に責められているときや「きつねさん」に「おおかみさんじゃないよ。」と言われたときの「おおかみさん」の気持ちに共感させるため役割演技や動作化を取り入れる。展開後段では、自分の生活をふり返り、友だちから信じてもらったときの経験を想起させ、価値を内面的に自覚できるようにする。終末では、教師の説話を通して、日ごろの言動だけで判断せず友だちを信じようとする意識の継続を図る。

3 本時のねらい

人をそれまでの言動だけで判断することは、その人を深く傷つけてしまうことに気づき、友だちを信じようとする心情を育てる。

- 4 本時 平成20年11月19日(水) 第1学年〇組教室に於いて

5 地域との関連(地域のひと・もの・ことの活用)

人権読本「ぬくもり」

- 6 準備 資料「われたかびん」(紙芝居) お面 どうとくノート

7 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 「おおかみ」について知っていることや思ったことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ともだちや」にでてきた。 ○ 弱い動物をおそう。 ○ こわい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで読んだ本などからおおかみのイメージを自由に出させ、資料「われたかびん」に登場する泣いている「おおかみさん」を提示し、めあてに意識を向けさせる。
展 開 前 段	<p style="text-align: center;">めあて</p> <p style="text-align: center;">おおかみさんのきもちをかんがえよう。</p> <p>2 資料「われたかびん」を読んで、「おおかみさん」の気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 「うさぎさん」たちが「おおかみさんがやった」と言ったわけを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ おおかみさんはいつもらんぼうなことをするから ○ きょうしつであそんでいたから <p>(2) 泣き出した「おおかみさん」の気持ちを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">なきだしたときのおおかみさんはどんなきもちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ やっていないのにひどい。 ○ どうして信じてくれないの。 ○ くやしい。 ○ 見てもいないのにひどい。 <p>(3) きつねの「おおかみさんじゃないよ。」という言葉聞いた時の「おおかみさん」の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 信じてくれてうれしい。 ○ きつねさんありがとう。 ○ よかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が紙芝居を読み聞かせることで資料の概要をつかませる。 ○ 場面の状況をつかませる。 ○ 泣き出してしまった「おおかみさん」の気持ちをつかませるため、役割演技を行う。 ○ 道徳ノートの吹き出しに泣いている「おおかみさん」の気持ちを書き入れさせる。 ○ 「おおかみさん」の気持ちを共感的に理解させるために、泣き出した「おおかみさん」の様子を動作化させる。 ○ 「きつねさん」役を入れて、役割演技を行う。 ○ 風のせいでかびんが割れたことが分かったときのそれぞれの気持ちに簡単に触れる。
展 開 後 段	<p>3 自分の生活をふり返り、自分は悪くないのに自分のせいになった時のことや、反対に友だちに信じてもらえた時のことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ドッチボールで当たっていないのに「当たった」と言われた。 ○ みんなからぼくがやったと言われていたとき友だちが味方してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちから信じてもらうことの喜びを内面的に自覚出来るように、これまでの具体的な体験やその時の気持ちを想起させる。
終 末	<p>4 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちを信じたり、信じられてうれしかったりした体験を聞かせることで、日ごろの言動や見かけだけで判断せず友だちを信じようとする意識の継続を図る。

8 板書計画

おおかみ...こわい くちがおおきい めあて

おおかみさんのきもちをかんがえよう。

われたかびん

あやまってください。

いつもらんぼうなことをし、きょうしつのなかでよくあばれているよ。

ぼくじゃないのにひどい。

どうしてしんじてくれないの。

おおかみさんじゃないよ。

ほんとにみたの。

じぶんのせいかつをふりかえって

しんじてくれてよかった。

9 道徳ノート

どうとくノート われたかびん めあて

おおかみさんのきもちをかんがえよう。

きつねさんに「おおかみさんじゃないよ。」といわれたとき。